



暑い、暑い夏でしたね。

長男が「地球環境を考えなければ」というので、できるだけエアコンをつけず、我慢してすごしました。

子供たちの夏休み中は、中国からのホームステイを受けたり、子供たちの部活の送り迎えなどさまざまな行事があり、普段の生活より忙しい日々でしたが、その分、充実感もありました。ただ、年々、体力が少しずつ落ちてきているのが、実感としてあり、行事のあとは少々お疲れ気味。回復力に自信がなくなってきました。「気合いだあ!」と言いながら毎日を乗りきっています。

みなさんはどんな夏でしたか。

《ごみ減量の視察報告＊名古屋市・長野市》

市民の知恵と行動力で

「ごみ減量先進都市」を実現しよう!

「名古屋市の場合」

223万人余の人口を抱える名古屋。さぞやごみ問題では大変だろうと想像される方があるかもしれませんが、

徹底した分別よびかけで

30%減に成功

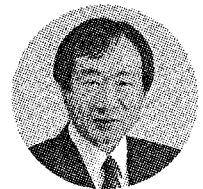
名古屋市は1999年に最終処分場が満杯になるという待ったなしの課題を突きつけられました。市長は野鳥の飛来地である「藤前干潟を埋め立てて新たな処分場」

と提案しましたが、市民運動の広がりで干潟を埋め立てることなく、また、手数料を有料化することなく、徹底した分別呼びかけることによって従来のごみ量を30%減らすことに成功しました。

ごまめな説明や

指導を徹底し...

もちろん最初からスムーズに進んだわけではありません。分別をはじめた当時は、地元の新聞が一面で報道するほどの混乱が起こっ



こんにちは！ 藤井健太郎です

(ふじい けんたろう)

9月定例県議会が9日から26日までの18日間の会期で開かれます。食料品はじめ諸物価の値上げが続くもとの議会であり、県政が県民生活を守る仕事を進めるよう求めています。

来年4月には、介護保険料や公営住宅家賃の見直し、療養ベッドの削減も進められることから、高齢者医療や介護問題、公的住宅問題など質問する予定です。

今議会での補正予算の主なものとして、六十谷駅のエレベーター設置やJA紀の里の柿・桃の選果施設への補助、公共下水道那賀処理区の管理委託費、交通センターの耐震化工事、県民文化会館のアスベスト処理費用などに7億円を計上しています。

党議員団がこれまでに要求していた産業廃棄物の保管や土砂の埋め立てについて県への届出や許可を得る制度となる条例が提出されています。

たそうです。しかし、市民、環境局

職員、自治会などの団体が丸となつて、ごまめな説明会、現場での指導を行う中、半年ほどで混乱は収まりました。

根付いた分別文化

今では「分別文化は名古屋にしっかり根付いている」と市長自らが胸を張って言うほどになっています。

名古屋市での分別は17。紙類だけでも新聞紙、紙パック、雑み、ダンボールと分かれています。資源(空き缶と紙類)は集団で回収し業者に売って、自治会に還元されています。(裏面につづく)



くにしげ秀明です

福田首相が辞任を表明しました。内政では社会保障費の削減、外交ではアメリカの戦争支援継続など、福田内閣の方針が国民から支持を得られず、ゆきづまった結果です。

福田首相は辞任表明会見の最後に、自分を客観的に見ることができると述べましたが、国民の痛みや怒りを理解する目は曇ったままでした。

自民党は新総裁選びを進めていますが、国民は『顔』ではなく政治の中身の改革を求めています。

新しい首相は国政の基本問題を臨時国会で徹底して議論したのち、解散・総選挙で国民の審判を仰ぐべきです。

ごみ減量の視察から見えた

『和歌山市の課題』

〔長野市の場合〕

歴史あるとりくみ

長野市は資源ごみ(空き缶、空きびん、古紙、雑がみ)の集団回収に取り組んでいます。昭和51年からの取り組みの長い歴史があり、この点は他の自治体にはない先進部分です。集団回収に取り組んでいる自治会や子供会などには業者へ売った収益と市からの奨励金があり、個人や自治会へ還元できるほどの実績があります。また、清掃センターの中に焼却場だけでなくリサイクル施設があり、環境教育や不要な家具を修理し、安価で欲しい

人に売るなどの取り組みもしていました。

〔視察を通して〕

名古屋市、長野市どちらにも共通して言えるのは、ごみ減量のための具体的な取り組みをずいぶん前から市の主要な課題として位置付けていたということでした。

市役所の中にも分別徹底の気風が定着しており、ごみ缶なども細かく分けて置かれていました。名古屋市は市庁舎の食堂で出す箸が割り箸で

はなく、洗って再利用できる箸でした。

和歌山市は分別の徹底をまず進めることが今後の早急な課題だといえます。ごみを分ければ資源となる。そのことが焼却するごみそのものを減らし、CO2を減らすことにつながる。

市民の知恵と行動力で和歌山市も「ごみ減量先進都市」を必ず実現することが出来ます。名古屋市と長野市を視察して確信をもつことが出来ました。

生活相談

*毎週木曜日 午後1〜4時

森下佐知子事務所にて

(475) 8122

*10月2日 午前9〜11時

芦原診療所にて

(423) 4349

*随時 和歌山市役所

議員団控え室

(435) 1113

おっまきく なあね

森下さんちの
元哉くん
成長日記

北京五輪はパラリンピックへと舞台を移しています。アスリート達を見てみると「あきらめないこと、挑戦すること」の素晴らしさを改めて感じます。TVで競技を観戦し、興奮したり、ため息をついたり、共に感動の涙を流したり...これは私だけでしたか...

中学生時、元哉は陸上部に所属していたためか400mリレーに大興奮。それから陸上熱に浮かされ、「テニス部辞めてもう一度陸上をやる!!」と言いました。テニス部は希望して入部し、ラケットも買い替えたばかりだったので「ゆっくり考えたら」と伝えました。高校の陸上部に体験入部させてもらい、しばらく筋トレやダッシュに勤しんでいた元哉でしたが、五日程たったある日、「やっぱリテニス部に戻る」と。こういうのを「憑き物が落ちた」というのでしようか。行きつ戻りつ歩む我が息子です。